



## ☆会長あいさつ☆

この度、前会長から引き継ぎ、2020年度のPTA会長を務めることとなりました定森です。過去の会長の功績を顧み、自分に何ができるのかと幾分緊張しております。

新年度が開始したものの新型コロナウイルスの最中であり、いまだに不安を感じている保護者の皆様、そして子どもたちも多かろうと思います。こういう時こそ、相手を思い気遣う心を持ち、西落合中学校が一致団結して、明るい未来を築き上げたいと思っています。そのためにもどうか保護者の皆様のお力添えをお願いするとともに、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

## ☆校長先生のお話☆

フルタイムの教育活動が始まって1カ月になりました。部活動に関しても1年生が加わり、神戸市部活動ガイドラインに沿っての活動になりました。運動部では、3年生のための種目別代替試合について、7月後半から8月初めにかけて行われます。そろそろ詳しい日程が決まってくる頃です。この試合は3年生運動部員にとっての活動の区切りとして企画されています。勝敗ではなく、3年間の活動のまとめとして力を出し切り、悔いの残らない試合を期待しています。

学校行事としては、体育会は9月12日(土)の午前中に行うよう計画を進めています。生徒・保護者席ともに間隔をとり、接触を減らす種目にするなど、感染症だけでなく、暑さ対策も考えて準備を進めます。

教育活動を再開して心配なことは、3か月間自宅で過ごすことが多かったため体が弱っているのではないかとと思われることです。思いがけないことでの怪我が少なくありません。体作りも、今後の学校生活で取り入れていく必要があると考えています。



## ☆各学年の様子☆

### 1年生(42回生)

ようやく42回生全員が顔をあわせることができました。学校に子どもたちの笑顔や楽しそうな話し声が少しずつ戻り始め、ようやく中学生としてのスタートを切ることができたように思います。残念ながら、入学式や宿泊行事はなくなりましたが、42回生みんなで楽しめる行事を企画していきたいと思います。

なお、今月は中学生になって初めての定期考査があります。今月から本格的に部活動が始まり、まだまだ学校生活のリズムに慣れていない場面があるかもしれません。しかし、日々の計画的な学習が進められますようにご家庭でもサポートをお願いします。今後ともよろしくお願ひいたします。

### 2年生(41回生)

通常の学校生活が再開して4週間が過ぎました。ようやく学校生活に慣れてきたように思います。昨年度に引き続きマイクロディベートに取り組んでいます。自分の意見をまとめ、審判を説得しようと熱弁している姿がとてもよかったです。また、今月中旬には期末考査があります。しっかりと学習に取り組むことができるようにサポートしたいと思います。

今年度も、ご家庭や地域の皆様にご支援いただくことがあると思いますがご協力のほどよろしくお願ひいたします。

### 3年生(40回生)

最高学年としてのスタートをようやく切ることができました。教室、学年フロア共に明るい雰囲気が戻ってきました。卒業までよろしくお祈りします。

7月3日(金)には、神戸星城高校、育英高校、村野工業高校、常盤女子高校と、私立高校の4校から講師を招いて「進路講演会」を行いました。各高校の魅力、特色、受験の心構えなど、真剣に聞いていました。自分の進路を考えるよいきっかけとなったと思います。

これから暑い夏を迎えることとなりますが、規則正しい生活を送り、乗り切ってもらいたいと思います。

### PTA 総会のご報告

本年度は新型コロナウイルスの影響により、書面にてPTA総会を開催しました。PTA総数286名のうち、「書面にて開催することに同意する」が286名で総会は成立しました。

2020年度PTA計画案・予算案・新役員候補者についても過半数の283名の承認を得ることが出来ました。

皆様のご協力ありがとうございました。

### 2020年度 役員決定のお知らせ

#### 【 役員 】

本年度の役員が決定しました。  
会員の皆様のご協力、ご支援によって  
一年間お世話させていただきました。  
よろしくお願いいたします。

#### 【 教職員 】

校長	山名 則 男
教頭	田 邊 真由美
書記	家 本 隆
会計	田 邊 真由美
愛護部顧問	阪 田 美 香
文化部顧問	元 田 卓 志

会 長	定 森 大五郎	2-2
副会長	石 古 明 美	3-1
〃	伊 藤 利恵子	1-1
〃	望 月 美 希	2-1
〃	狩 野 夏 美	2-2
〃	堤 尚 子	2-2
書 記	阿 向 美和子	2-3
〃	荒 木 亜希子	2-1
〃	上 野 佳代子	2-2
会 計	岡 文 恵	1-2
〃	石 飛 則 子	3-3
会計監査	在 里 智 子	
〃	三 木 美 緒	

今年度は、新型コロナウイルス感染症による休校の影響により、学年委員および専門部委員の選出を行わず、本部役員が中心となり、皆さんにご協力を呼び掛けながら、学校行事のお手伝いやPTA 行事を行うことになりました。

そこで、これまで年度初めに配布していた「ひとり一役運動」参加協力のアンケートを、行事の実施に合わせ、数回に分けて行います。行事に参加したり、校内の日常の様子を垣間見たりして、普段の子供たちの様子を知ることができるよい機会でもあります。是非たくさんの方にご協力いただき、保護者みんなで子供たちの学校生活を見守っていきたくと考えています。ご協力、どうぞよろしくお祈りします。

また、例年行っている制服リユースは、社会情勢を鑑み、当面は寄贈の受付のみとし、来年度以降、譲渡の再開ができるよう準備していきます。在庫も大変少なくなっていますので、ご協力をお願いします。(常時、受付BOXを玄関に設置しており、行事の際にも受付しています。お洗濯はご家庭でのお洗濯で構いません。)

次回運営委員会 9月 3日(木) 17:00~



## 景観地理学のススメ

山名 則男

いきなり、真面目そうな話で申し訳ありません。私の専門教科は社会科です。社会科の授業を持っていた頃、夏休みの自由研究に、自分が興味を持った身近な場所の古い写真を見つけ、その写真が撮られた場所が今どうなっているか調べるという課題を出していました。これは歴史の教科書にある『地域の調査』という単元の一部です。阪神淡路大震災以前と後の神戸の街並みを比較して、街並みの変化を考えることなどがわかりやすい例です。これを景観地理学といいます。

右の写真は、今から50年ほど前の神戸市内の風景です（撮影は私の父です）。中央のタワーはこの後間もなく取り壊されてしまいましたが、これが何か知っている人は、神戸市民の中でもかなり少なくなっていると思います。この場所は、数年前にある放送局で日本各地の地形を調べて回る番組で紹介されました。（ご覧になった方もおられるのではないかと思います。）

正解は、兵庫区の湊川公園に建つ、神戸タワーです。湊川公園には当時遊園地もあり、ジェットコースターもありました。今では跡地にはビルと広場が残るだけになっています。

歴史って年号と人名を覚えるだけでの作業のように考えられがちで、「暗記教科」とまで言われます。ところが、歴史では記録に残る人だけが生きていたわけではありません。記録には残らないたくさんの方が生きて暮らしていたすべてが歴史です。写真が残るのはごく最近の事です、その写真からも昔の人の営み（わずから50年前を昔と呼んだら叱られるかもしれませんが）がうかがえ、その当時の暮らしに思いを馳せることができます。その当時の暮らしが今につながっていることを思うと、歴史を知ることが必要なことと私には思えるのです。

神戸市内の古い写真を見つけ、現在と比較することが、ここ数年の私の趣味になっています。



みなさん、こんにちは。スクールカウンセラーの上田です。

今回から数回にわたって「不登校支援」について書いていきたいと思います。

私はこれまでに多くの不登校問題に取り組んできましたが、不登校をめぐる問題は本人にとっても保護者にとっても、とても悩ましい問題だと常々感じてきました。

その難しさの大部分は「関係者それぞれの支援の方向性」をめぐる問題に結実します。

不登校問題の主な関係者は、(カウンセラーや外部の関係機関の人たちを外すと) その生徒本人、その保護者や家族、学校の先生方となりますが、そのなかで支援の方向性が大方定まっているのは学校の先生方です。というのも、「義務教育(大人は子どもに教育を受けさせる義務がある)」という言葉が示すように、基本的に先生方には(支援の途中過程で休むことを勧めることはあっても)「生徒の再登校を促す」という社会的使命が与えられているからです。

悩ましいのは本人と保護者です。特に保護者です。

子どもが不登校になったとき、多くの保護者は「学校に行けない何らかの事情があり、それを解決すれば再登校に至るだろう」と考え、その「事情」をつかもうとします。そこには「再登校してほしい」という望みがあります。

ですが、子どもの様子を見てみると、再登校を勧めたり、不登校になっている何らかの事情を探ったりしてよいものかどうか悩みます。本人が登校することも、再登校への支援すらも拒絶している場合は特にそうです。この場合、本人が望む支援とは「今はそっとしておいてほしい」ということです。すると、保護者は「再登校してほしい」という自身の希望と「そっとしておいてほしい」という本人の要望のあいだで板挟みになったような感じがします。これが「悩ましき」です。

このようなとき、私がいつも行っている保護者へのアドバイスは「保護者の希望や願いは本人にそのまま伝えればよい」というものです。**希望と命令は異なるものだからです。**「学校にいきなさい」ではなく「学校にいてほしい」と保護者が願うのは保護者の自由です。もちろん、その願いを子どもがどう受け取るのかも子どもの自由です。家族が苦しくなるのは、この互いの「要望」を自由に行き交わせなくなるときです。保護者が子どもに「〇〇になってほしい」と願うことは親として自然なことです。

この自然さを回復させることが、不登校支援の第一歩なのです。(続く)

カウンセリングは、毎週火曜日 10 時～18 時に行っています。  
お電話の事前予約は田邊教頭(078-791-8444)に、当日予約は  
S C(090-8379-3709)に連絡してください。